

2019年度の企画展 今年度も多彩な展覧会を企画しています。ぜひご来館ください。 ※展覧会名や会期は変更される場合があります。

ニューヨークが生んだ伝説 写真家 ソール・ライター展

2019年3月9日(土) ▶ 5月9日(木)

83歳にして「カラー写真のパイオニア」として注目された伝説の写真家ソール・ライター(1923~2013)。2017年には待望の日本初の回顧展が開催、ニューヨークのソール・ライター財団所蔵の写真・絵画作品とその他貴重資料が一堂に紹介され反響を呼びました。本展は東京、伊丹に次ぐ3会場目の公開です。



《天蓋》1958年 ソール・ライター財団蔵 ©Saul Leiter Foundation

【所蔵品展】 コレナニ!?びじゅつ ~アートいろいろ 見かたイロイロ~

2019年5月25日(土) ▶ 6月30日(日)

「現代アート」と聞くと何だか難しそうですが、それぞれの作品には決して決まった見方があるわけではありません。本展では、コーナーごとに簡単な問いかけがあり、その答えを見つけながら作品鑑賞を楽しみます。家族連れや学校団体などにもオススメの展覧会です。



舟越直木《Chuckwill's Widow》1993年 当館蔵

MOE 40th Anniversary 人気絵本のひみつ展

島田ゆか 酒井駒子 ヒグチユウコ ヨシタケシンスケ なかやみわ

2019年7月13日(土) ▶ 9月23日(月・祝)

月刊雑誌『MOE』の創刊40周年を記念する、5人の人気絵本作家—島田ゆか、酒井駒子、ヒグチユウコ、ヨシタケシンスケ、なかやみわ—による原画展です。貴重な絵本原画約200点のほか、スケッチやダミー本など絵本制作に関わる資料やゆかりの品々も展示し、5人の作家の魅力と世界観に迫ります。



© YUKA SHIMADA/OJIGI BUNNY INC./KOMAKO SAKAI/YUKO HIGUCHI/SHINSUKE YOSHITAKE/MIWA NAKAYA/HAKUSENSHA

乙女のデザイン 大正イマジユリの世界

2019年10月5日(土) ▶ 11月24日(日)

大衆文化が盛んになり、印刷技術が進歩した大正時代。人々は様々な図像を身近に楽しむようになりました。竹久夢二や杉浦非水らによる装幀、挿絵、広告、絵はがき等、モダンでかわいいデザインの数々をご紹介します。



竹久夢二「汝が碧き眼を開け」(セノオ楽譜56番)表紙7版 1927年(1917年初版) 個人蔵

タータン展 伝統と革新のデザイン

2019年12月14日(土) ▶ 2020年3月1日(日)

タータンはスコットランド北西部・ハイランド地方で発展した格子柄の織物です。本展は「タータン」をテーマにした日本初の本格的な展覧会で、タータンの布地約100点、洋服や靴をはじめ、タータンにまつわる資料や美術作品などを集め、その知られざる歴史や社会的、文化的背景を幅広く紹介します。



《アフターヌーンドレス》1865年頃 神戸ファッション美術館蔵

THE ドラえもん展 NIIGATA 2020

2020年3月20日(金・祝) ▶ 2020年5月17日(日) (予定)

「あなたのドラえもんをつくってください」。国内外で活躍する28組のアーティストたちに、こんなお願いをしました。1970年の誕生以来、日本中に夢を届けてきたドラえもん。この展覧会のために、アーティストたちが様々な発想や技法によって生み出した作品をお届けします。



村上隆《あんなこといいな 出来たらいいな》(部分) ©2017 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro

昨年度開催した「創立100周年記念 国画創作協会の全貌展—一百年前、若き日本画家達の情熱」[会期:2019年1月4日(金)～2月17日(日)]に出品された新潟県出身画家の作品にまつわるエピソードをご紹介します。

■土田麦僊《蔬菜》と新潟の支援者たち

国画創作協会第4回展に土田麦僊が出品した《蔬菜》^{【図1】}。額の裏には麦僊の書簡が貼られています。



【図1】 土田麦僊《蔬菜》1925年 新潟県立近代美術館寄託

「築地の近様が拙作野菜図を買って頂いた由、これは外遊後第一の国展に描いたもの、相当を骨を折ったものにて御襲蔵下される事を嬉しく思います 右返礼迄 土田麦仙 近様」

文頭、「築地の近様」が「野菜図」(《蔬菜》)を購入したとありますが、文末の宛名も「近様」。「近様」が二人とは、いったいどういう訳でしょうか。

北蒲原郡築地村(現在の胎内市)に、近磯吉という有力な米商がいました。磯吉には三人の息子があり、長男の寅一郎^{【図2】}は



【図2】 近寅一郎



【図3】 近熊次郎

明治16(1883)年生まれ、次男の熊次郎^{【図3】}は明治20(1887)年生まれで麦僊と同年。大正7(1918)年、父の商売を株式会社化するにあたって寅一郎は築地で本社の社長となり、熊次郎は北蒲原郡新発田町(現在の新発田市)に出張所を構えました。麦僊が「築地の近様」と頭に地名をつけたのは熊次郎と区別するためであり、《蔬菜》を購入したのは寅一郎、書簡は熊次郎に宛てたものと考えられます。寅一郎は《三人の舞妓》(焼失)、熊次郎は《舞妓林泉》(東京国立近代美術館蔵)の旧蔵者でもあり、ともに麦僊と近い間柄でした。

一方で、新潟の麦僊支援者として以前から知られるのは南蒲原郡加茂町(現在の加茂市)の関真次郎^{【図4】}です。文久元(1861)年の生まれで、「加茂綺」とよばれる木綿織物業に機械化を導入し富を築きました。多くの美術品を蒐集し、良寛作品を通じて安田靉彦とも深い関わりがあった人物です。大正13(1924)年の麦僊から関への書簡には《舞妓林泉》を熊次郎に、《蔬菜》を関に譲ると書かれています。昭和9(1934)年、関家所蔵品入札の目録に《蔬菜》の掲載がありますから、寅一郎が《蔬菜》を入手したのはこの時でしょう。現在、麦僊の出品作のほとんどが東京や京都の主要な美術館に収蔵されていますが、《蔬菜》は新潟の支援者の手から手へ渡り、新潟に留まっていた数少ない貴重な作品です。



【図4】 関真次郎

池田珠緒(当館主任学芸員)

※【図2】～【図4】の出典：『やまと錦』錦益社、1916年(提供:新潟県立図書館)

■恩田耕作《佐渡海府風景》の取材地について

本県佐渡出身の日本画家恩田耕作(1896～1974)は、国画創作協会創立の翌年、京都に出て同郷の土田麦僊に入門しました。当館では耕作の第5回国展入選作《佐渡海府風景》^{【図1】}を所蔵しており、今回の「全貌展」でも岡山、和歌山、新潟の三会場に展示されました。

この作品は、1982(昭和57)年、両津市郷土博物館(当時)で回顧展が開催された際には《わが村》という題名の個人蔵作品として紹介されました。1992(平成4)年、近代美術館の前身である新潟県美術博物館に収蔵。その後の国画創作協会に関する研究書等でも、画家の生地、両尾の漁村風景を描いたものと記述されました。両津港から湾に沿って姫崎灯台に向かう途中にある両尾集落には、確かに作品と似た岩山が存在します。しかし、両尾の辺りは佐渡では「東浜」と呼ばれ、「海府」ではないため、発表当初の題名とは矛盾することになります。

今回、佐渡の海岸線を調べたところ、島の最北端、内海府の鷲崎集落に

も作品と類似する地形があることがわかりました。佐渡博物館および鷲崎集落在住の写真家である梶井照陰氏から協力を得、また過去の鷲崎の風景写真との照合から、ここが作品の取材地であるとの確信に至りました。

下の写真^{【図2】}は、梶井氏に撮影していただいたものです。作品右方の海に突き出した岩山は、現在ではその周囲が埋め立てられ、草木に覆われてしまいましたが、地元では「三社さん」と呼ばれ、信仰の対象とされてきた場所です。写真左端は梶井氏が住職を務める寶鷲山観音寺で、作品には現在は切り倒されてしまった大木が描かれています。また、作品の中央、遠方に見える岬の岩場は、「せこの浜洞窟」と呼ばれる弥生時代の遺跡です。このように、90年余り前の鷲崎の実景をほぼ忠実に描写した作品であることが明らかとなりました。

画家が当地を選んだ理由や、制作前後の足跡は不明のままですが、作品に込められた思いに、少しだけ近づけたような気がしています。

長嶋圭哉(当館主任学芸員)



【図1】 恩田耕作《佐渡海府風景》1926年 当館蔵



【図2】 現在の鷲崎集落(2018年9月撮影) 写真:梶井照陰氏

企画展「みんなのレオ・レオーニ展」から

「みんなのレオ・レオーニ展」

2018年10月6日(土)～12月16日(日)

この展覧会では、大人はもちろん小さなお子様にも楽しい時間を過ごしていただけるよう工夫をしました。ここでは2つご紹介いたします。

1つ目は、現在、改修で休館中の県立近代美術館スタッフと協働で企画し、展示室内に設置した「ちぎってつくろう フレデリックのなかまたち」と「ならべてつくろう ○○ [ちぎってつくろう フレデリックのなかまたち]のコーナーなやつ」のコーナーです。切り紙でねずみを作ったり、様々な色のマグネットで自由に形を作ったり、手を動かしながら、レオーニが絵本で用いた技法を体験していただきました(自由参加)。「ちぎってつくろう～」では、子どもだけでなく、真剣に取り組む大人が続出。出来上がりをお互いに見せ合うなど、和やかな空気に包まれました。



できあがったねずみたち

た雰囲気になるよう展示室内に音楽も流しました。アンケートには、「子どもたちも楽な気持ちで見ることができた」、「子どもの声がある展示室が心地よかった」、「友人と作品について話しながら見られた」という好意的な感想が多く寄せられました。しかし一方で、「音が気になって鑑賞に集中できなかった」、「知っていたら、他の時間に来館したと思う。」という意見も。どちらのご意見も大事にしながら、皆様にとっての心地よい展示環境について今後も考えていきたいと思います。

この他、展示室にはレオーニの絵本がテーマの体験型の映像や、絵本をじっくり読めるスペースも設置。また、「絵本の読み聞かせ」(全5回)や、絵本カバーを使ったワークショップなど、楽しいイベントも数多く行いました。ご来館の皆様の笑顔にたくさん出会えた展覧会でした。

今井有(当館業務課課長代理)



「ならべてつくろう ○○なやつ」のコーナー

所蔵品展「ターニングポイント!」から

「ターニングポイント!—人生、それぞれの“時”」

2018年5月19日(土)～6月24日(日)

特集展示

「15歳のバンビー新潟県立万代島美術館の歩み」

昨年は当館が開館15年という時の節目に当たりました。そこから、「15歳のバンビー」と題した特集展示を所蔵品展に併設し、15年間の活動を、年表をはじめ、展覧会ポスター、記録映像、展覧会図録を通してご紹介しました。さらに、会場内では当館の思い出を皆様からお寄せいただき会期中掲示しました。



NIIGATAアートリンク共催 開館15年記念トークセッション

2018年6月9日(土)

上記の特集展示コーナーを会場に、新潟県立、新潟市立の4つの美術館のネットワーク「NIIGATAアートリンク」との共催イベントを実施しました。各館のベテラン学芸員が「バンビー、15年の歩み」、「それぞれのターニングポイント!～学芸員編」という2つのテーマで語り合いました。後半のテーマは美術家の人生の転機に着目した所蔵品展のいわば学芸員編として、4名のそれぞれのターニングポイントとなった過去の展覧会の舞台裏や出来事を振り返っていただきました。限られた時間内ではとても語りつくせない発表者の熱い思いがあふれ、進行上、司会がやむなく制止する場面もありました。最後には、会場の皆様からあたたかなお言葉をいただくとともに、美術をめぐる感動的なエピソードまでご披露いただきました。そうした肉声をとおして、美術館を愛する人々の存在を再認識すると同時に、大きな励ましをいただくことになりました。美術館という社会的な存在と、そこで働く学芸員としての仕事を見つめ直す機会をいただいたような気がします。

澤田佳三(当館業務課課長代理)



「タータン」を知っていますか？

タータン展 伝統と革新のデザイン

2019年12月14日(土) ▶ 2020年3月1日(日)

タータンとは、元々織物そのものを指していました。現在はデザイン自体も含めて呼んでいます。英国のスコットランド発祥と思われがちですが、実はこうした格子柄は世界中にあるものです。思い込みの原因は、同国ハイランド地方の人々がこうした格子柄の織物を身に着け、その氏族を示す文様として織り柄を創造し保存し体系化していったからなのです。

タータンの歴史を振り返ると、相争っていたスコットランドとイングランドが18世紀初頭に統一王国になって以降、王家継承権をめぐる戦いの中で、着用禁止の法令ができたことすらあったのです。しかし、現在ではスコットランドだけでなく、広く英国を象徴するものとして世界中に普及しています。

現在、スコットランドにはタータン登記所もあります。登録されるデザインの基本的



【図1】タータンの柄 ジャコバイト(モダン) 名誉革命(1688-89)後フランスに亡命したジェームズ7世の王座復帰を支持する人々が、1715年の反乱時に着用していた。同じ柄でも、化学染料を使った明快な発色のものを「モダン」、自然の染料を用いた優しい色合いは「ミューテッド」と呼ぶ。

な要件は2つ。①2色以上の糸が直角に交わる格子柄である。②経糸と緯糸の色と本数が同じで、基本パターンを繰り返す。これらの条件さえ織り込まれていれば、あとは自由。日々これまでにない新たなタータンがデザインされ、日本を含む世界中から申請が届いているのです。

ところで、「タータン・チェック」が実は和製英語だをご存知でしょうか。英語圏では、タータンとチェックは全くの別物なので、一緒になることはあり得ません。チェックとは格子柄の中でも市松模様当たるもので、2色の同寸の正方形で構成されるものを指していますから、タータンとは違います。

身近にありながら意外と知らないタータン。様々な作品や資料をとらして、理解しやすく、また楽しい展示になるよう工夫を考えています。

桐原浩(当館業務課課長)



【図2】ヴィヴィアン・ウエストウッド(タータン・スーツ) 1993年 神戸ファッション美術館蔵 英国風の要素、古典的要素を取り入れ、エレガントでありつつ前衛的でもある。

NIIGATAアートリンク

新潟のアートシーンをもっと面白く、もっと元気にすることを目的に2012年度からスタートした「NIIGATAアートリンク」。新潟県立近代美術館、新潟市美術館、新潟市新津美術館、新潟県立万代島美術館の4館で構成されています。昨年度ご好評いただいたトークセッションなどのイベントを今年度も開催予定です。どうぞお楽しみに!

ミュージアムショップBANBI

美術館ロビーにあるミュージアムショップBANBIでは、展覧会のオリジナルグッズや展覧会図録、雑誌、書籍などを取りそろえております。近代美術館、万代島美術館開催展の前売券もこちらでどうぞ。

【営業時間】 10:00~18:00

【定休日】 美術館の休館日と同じ

TEL: 025-243-5820

サポートメンバーを募集しています

万代島美術館では、皆様から美術館により親しんでいただくために、サポートメンバー(ボランティア)を募集しています。主な内容は、美術館および展覧会のイベントへの協力、展覧会ポスターの発送作業などです。活動をご希望の方は、お電話にてお問い合わせ下さい。

TEL:025-290-6655

新潟県立近代美術館(長岡市)の企画展

新潟県立近代美術館は、改修工事のため、2019年9月13日(金)まで全面休館しています。

PIXAR(ピクサー)のひみつ展 いのちを生まだすサイエンス

2019年10月12日(土) ▶ 11月24日(日)

1964年 東京—新潟

2020年1月25日(土) ▶ 3月22日(日)

【お問い合わせ先】〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14 TEL: 0258-28-4111 URL: <https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

新潟県立万代島美術館
The Niigata Bandajima Art Museum

〒950-0078

新潟市中央区万代島5-1(朱鷺メッセ内 万代島ビル5階)

TEL: 025-290-6655 FAX: 025-249-7577

URL: <https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>



How To Access

新潟県立万代島美術館は、新潟市を貫く信濃川の河口にある複合施設「朱鷺メッセ」の中、万代島ビル(ホテル日航新潟と同じ建物です)の5階にあります。

新潟駅から

- バス……………約15分
(万代島バス乗場より「佐渡汽船線」(3番線)あるいは「新潟市観光循環バス」(2番線)に乗車。「朱鷺メッセ」下車)
- タクシー……………約8分
- 徒歩……………約25分

新潟空港から

- タクシー……………約20分

自動車(有料駐車場有り)

- 高速道路[北陸道(新潟西I.C.)-磐越道(新潟中央I.C.)-日東道(新潟亀田I.C.)]から一般道へ。新潟バイパス、亀田バイパスを紫竹山I.C.で降り、栗ノ木バイパスを新潟西港方面へ。

信濃川ウォーターシャトル(水上バス)

- 新潟ふるさと村から……………約50分
- 新潟市歴史博物館から……………約5分

開館時間 午前10時~午後6時
(観覧券販売は午後5時30分まで)

休館日 月曜日(展覧会によって月曜開館あり)、
展示替期間、年末年始
※展覧会によって異なりますので、
展覧会ごとにご確認ください。

観覧料 新潟県内の高等学校等が、教育活動として美術館
に団体引率をする場合、所定の用紙で事前(見学の
一週間前)に申請をすることにより、観覧料が免除
されます。美術の授業、社会科見学、遠足などさま
ざまな形でご利用になれます。